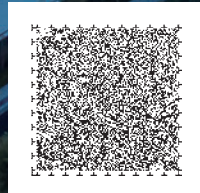


東京都

オリンピック・パラリンピック教育抄録

Moving FORWARD

未来に残したい教育がある





東京都オリンピック・パラリンピック教育抄録について

人生の糧となるような掛け替えのないレガシーを子供たち一人一人の心と体に残していくことを目的に実施してきた「オリンピック・パラリンピック教育」。

将来の子供たちにもこのレガシーを継承し、
未来の礎となるよう取組の成果を教育抄録としてまとめました。

はじめに

東京都は、平成23年7月に、2020年のオリンピック・パラリンピック夏季大会の招致を表明し、平成25年9月、国際オリンピック委員会総会において、開催都市として決定されました。

これを受け、東京都教育委員会では、オリンピック・パラリンピック教育の取組の基本理念や方向性、具体的施策を検討するため、平成26年10月に「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議」を設置し、スポーツが平和な社会の実現と持続可能な社会づくりに貢献することに気付くこと、子供たちの自己実現を促し、これからの共生社会や国際社会を担う資質・能力を身に付けることなどについて、オリンピック・パラリンピック競技大会の機会を最大限に活用すべきであるとし、平成27年12月に最終提言を取りまとめました。

これらを踏まえ、東京都教育委員会は、平成28年1月、「『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針」を策定し、都内全公立学校・園で推進してきました。

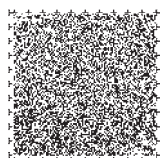
本方針では、育成すべき人間像として、「自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間」、「スポーツに親しみ、知・徳・体の調和の取れた人間」、「日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間」、「多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間」の4点を示し、子供たちに「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「スポーツ志向」、「日本人としての自覚と誇り」、「豊かな国際感覚」の5つの資質を重点的に育成してきました。

各学校においては、子供たちの心と体に、その後の人生の糧となるような掛け替えのないレガシーを育むことができるよう、東京2020大会への参画や多様性への理解、国際交流、伝統・文化理解、ボランティア等の創意工夫あふれる様々な体験活動に取り組んできました。

このたび、東京都におけるオリンピック・パラリンピック教育の6年間を、「東京都オリンピック・パラリンピック教育抄録 Moving FORWARD」として取りまとめました。本抄録は、これまでの取組の記録にとどまらず、今後学校が多様な体験活動を行う際に参考となるような内容としています。

都内の公立学校・園では、大会後も長く続く教育活動として、家庭や地域等と連携を図りながら、共生社会の実現等に向けた教育活動である「学校2020レガシー」に取り組み、未来を担う子供たちへの教育活動を一層充実させてまいります。

東京都教育委員会



基本的な方針

- 東京都教育委員会は、東京2020大会を子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を全公立学校・園で展開
- 本教育により、子供たちの強みを伸ばし、弱みを克服する取組を確実に推進し、国際社会に貢献するとともに、東京、日本の発展の担い手となる人材を育成
- 子供たちに特に身に付けてほしい5つの資質である「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「スポーツ志向」、「日本人としての自覚と誇り」、「豊かな国際感覚」を重点的に育成

数字で見るこれまでの軌跡

2300校

都内全ての公立学校で実施

年**100**万人

の幼児・児童・生徒が取り組む

年**35**時間

週に1時間程度

子供たちに特に身に付けてほしい

5つの資質

を重点的に育成

2016年から

6年間実施

発達段階に応じた

小中高**3**種類

の学習読本を作成

4つのプロジェクト

で学校の取組を支援

延べ**1400**人

のアスリート等を学校へ派遣

学校2020レガシー

として全校で取組を継続・発展

各年度の主な取組

2015年

- ・オリンピック・パラリンピック教育推進校を指定
- ・「『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針」を策定

2016年

- ・オリンピック・パラリンピック教育の全校実施を開始
- ・5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクト「東京ユースボランティア」「スマイルプロジェクト」「夢・未来プロジェクト」「世界ともだちプロジェクト」を開始
- ・オリンピック・パラリンピック教育重点校を指定(100校)

2017年

- ・ボランティア情報を集約・発信するウェブサイト「ボランティアバンク」を開設
- ・パラ競技応援校の指定を開始

2017年

- ・パラスポーツ指導者講習会を開始
- ・パラスポーツ交流大会を実施
- ・先進的なオリンピック・パラリンピック教育実施校を「アワード校」として顕彰
- ・「もったいない大作戦」を開始

2018年

- ・「都立高校生等ボランティア・サミット」を開始
- ・被災地の学校とパラスポーツで交流する「被災地連携パラ交流」を実施
- ・学校の国際交流の取組を支援する「国際交流コンシェルジュ」を開設

2019年

- ・「都立高校生海外ボランティア体験」を実施
- ・学校での文化の取組を支援する「文化プログラム・学校連携事業」を開始

2020年

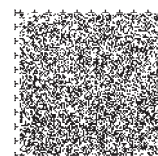
- ・「都立高校生等ボランティアサミット・FINAL」を開催

2021年

- ・「学校連携観戦」を実施
- ・「バリアフリーVR観戦『未来のスターの指定席』」を実施
- ・「みんなの声をアスリートに届けよう!」を実施
- ・「東京2020大会テレビ観戦・オンライン交流事業」を実施

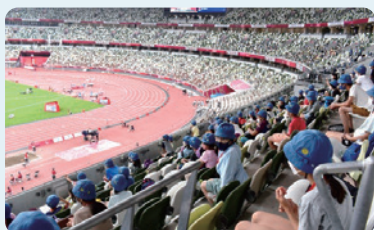
2022年~

- ・レガシーとして、全公立学校が「学校2020レガシー」の取組を開始



学校・東京都教育委員会における様々な取組

東京2020大会観戦の記録



東京2020パラリンピック 競技大会学校連携観戦

都内の希望する学校が、熱中症対策・感染症対策等の安全対策を講じ、競技会場で、競技観戦を実施



バリアフリーVR観戦

最新テクノロジーを活用し、まるで競技会場にいるような特別な競技観戦を実施



東京2020大会テレビ観戦・ オンライン交流事業

学校において、TV等での競技観戦及び他校とのオンライン交流を同時に実施

学校の取組



ボランティアマインドを 育む取組例

- ボランティア活動
- 地域清掃活動
- 福祉体験 など



障害者理解を推進する 取組例

- 障害者スポーツ体験、交流
- パラリンピアンとの交流
- 障害者との交流 など



スポーツ志向を推進する 取組例

- スポーツ体験教室
- オリンピアン・パラリンピアンとの交流 など



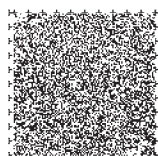
日本人としての自覚と 誇りを育む取組例

- 地域の伝統文化の体験
- 日本の伝統文化の鑑賞、体験 など



豊かな国際感覚を育む 取組例

- 留学生等との国際交流
- 大使館等との交流
- 海外の学校との交流 など



東京2020大会参画の記録



マスコット投票

史上初となる全国の小学生によるマスコット投票に、都内全ての小学校が参加



みんなの声をアスリートに届けよう！

アスリートへの「応援メッセージ動画」を作成し、アスリートと間接的に交流



フラワーレーンプロジェクト

子供たちが育てたアサガオに、応援メッセージ等を添えた鉢植えを、競技会場に展示

東京都教育委員会事業



東京ユースボランティア

各学校が取り組んできた社会奉仕の精神を養う取組を充実・拡大させ、子供たちのボランティアマインドを育むとともに、自尊感情を高めていくために、発達段階に応じて、ボランティア活動を計画的・継続的に実施



スマイルプロジェクト

障害者スポーツの観戦・体験、スポーツを通じた特別支援学校と地域の学校等との交流などを通し、子供たちが、お互いの人格や個性について理解を深め、思いやりの心を育成する取組を実施



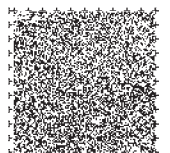
夢・未来プロジェクト

幼児・児童・生徒がアスリート等との直接交流を通じてスポーツの素晴らしさを実感し、夢や希望をもち続けることができるよう、オリンピックやパラリンピアン等を学校に派遣



世界ともだちプロジェクト

東京2020大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる取組を実施



オリンピック・パラリンピック教育のレガシー

子供のレガシー

6年間の学習や体験を通して得た、子供たちの感動や喜び、理解、気付き等の心の変容と、それによって変化してきた行動

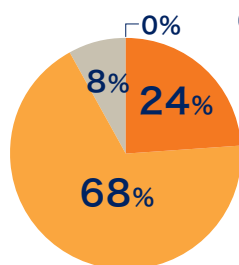
学校のレガシー

子供の体験活動が多様化したこと

様々な活動を通して、新たなネットワークができたこと

地域や関係団体と協働した取組が増えたこと

都内全公立学校・園及びオリンピック・パラリンピック教育を推進する都内こども園を対象に、東京都のオリンピック・パラリンピック教育についてのアンケート調査を実施しました。



Q 「オリンピック・パラリンピック教育」を通して、子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となる掛け替えのないレガシーを残すことができましたか。

■ とても思う ■ 思う ■ あまり思わない ■ 思わない

子供たち一人一人の心と体に掛け替えのないレガシーを残すことができたと、92%の回答者が「とても思う」又は「思う」と回答している。

回答者の声

オリンピック・パラリンピック教育がなければ会うことのなかった、選手や講師の方からの話や体験は貴重で、生き方や考え方など、子供たちの心に深く残ったと考える。

共生社会の形成に向けて長く続く教育活動として根付かせ、「未来の東京」の担い手となる人材を育成

全公立学校・園は、6年間で培ったネットワークや家庭・地域との連携を生かした体験活動を

学校2020レガシーとして継続・発展

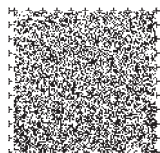
設定例

- ・ 地域清掃や花植えボランティア、地域行事でのボランティアを実施。
- ・ パラリンピック競技の体験活動を通じて障害者理解を進める教育を一層充実させる。
- ・ 競技指導者を講師に招いて指導を受け、競技の楽しさを学ぶ。
- ・ フラワーレーンで育てたアサガオから収穫した種を育て、おもてなしの文化を継承。
- ・ 留学生や在京大使館との交流会、外国とのビデオチャット等により、国際感覚を醸成。



東京都教育委員会は、

5つの資質の育成に向けた学校の取組を
これからも支援していきます。



そして 未来へ

これからも子供たちとともに
いつまでも





令和4年3月

東京都教育委員会印刷物登録 令和3年度 第144号

発行 東京都教育庁指導部指導企画課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5320)6849